

第4回 愛南町御荘地区沿岸津波対策検討委員会

整備方針（案）に関する住民意向調査結果の概要

| 構 成 | |
|------------------------------|----|
| 1. はじめに | 1 |
| (1) 住民意向の確認項目 | |
| (2) アンケート調査の概要 | |
| 2. 御荘地区沿岸の津波対策について | 2 |
| (1) 必要な津波対策 | |
| (2) 堤防の必要性（高さ）について | |
| (3) 「堤防が必要」とした理由 | |
| (4) 「堤防は必要ない」とした理由 | |
| 3. 堤防整備の進め方について | 7 |
| (1) 堤防整備の進め方 | |
| (2) 段階的整備の評価 | |
| 4. 住民意向調査のまとめ | 11 |

1 はじめに

(1) 住民意向の確認項目

- ・ アンケート調査結果等から以下の3項目について住民意向の確認を行う。

- ① 津波対策の必要性 -----> 堤防整備についての確認
- ② 堤防整備の進め方 -----> 段階的整備についての確認
- ③ 堤防整備における配慮事項等 -----> 段階的整備についての確認

(2) アンケート調査の概要

■ 一般住民へのアンケート

- ・ 御荘湾沿岸住民2,750世帯に配付
- ・ 説明会参加者等の希望者にも配布
- ・ 回収数869票 (回収率31.6%)

(参考：標本誤差について)

- ・ 沿岸地域の全世帯2,750世帯を母集団とした場合、95%の信頼率で標本誤差は2.7%となる。

■ 中学生・高校生へのアンケート

- ・ 学校での説明会の実施後にアンケートの回答を依頼
- ・ 回収数547票 (回収率84.5%)

(参考：結果算出について)

- * 図中の「n」は、「無記入」や「非該当」を除いた有効回答数[人]とし、比率[%]は「n」を分母として算出している。

■ 各質問における有効回答数について

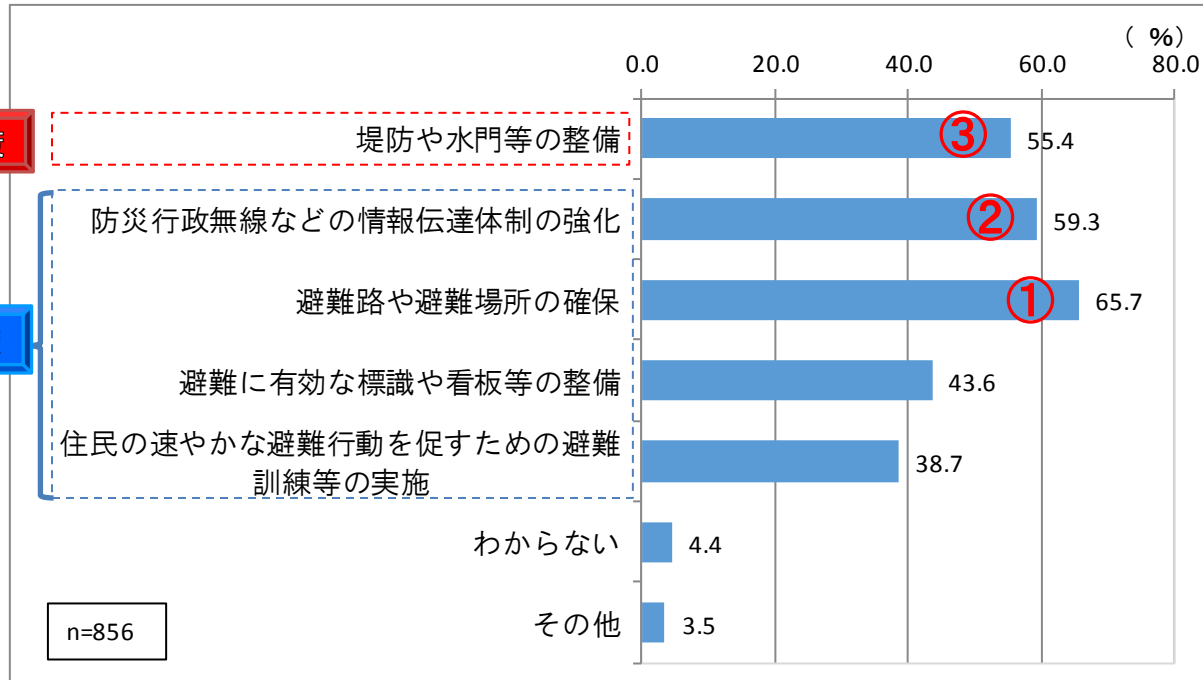
- ・ 有効回答数は、全回答数から「無記入」と「非該当」を除外するものとする。

2 御荘地区沿岸の津波対策について

(1) 必要な津波対策

【調査結果①】

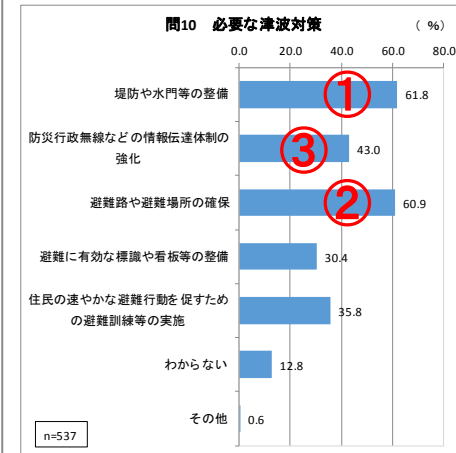
問10 津波に対して安全安心を確保するために、どのような対策が必要だと思いますか。(複数回答)



ハード対策

ソフト対策

【中学生・高校生】



・「避難路や避難場所の確保(65.7%)」「防災行政無線などの情報伝達体制の強化(59.3%)」が高く、続いて「堤防や水門等の整備(55.4%)」が高い。

・なお、中学生・高校生も同様に「堤防や水門等の整備(61.8%)」が重要であると考えている。

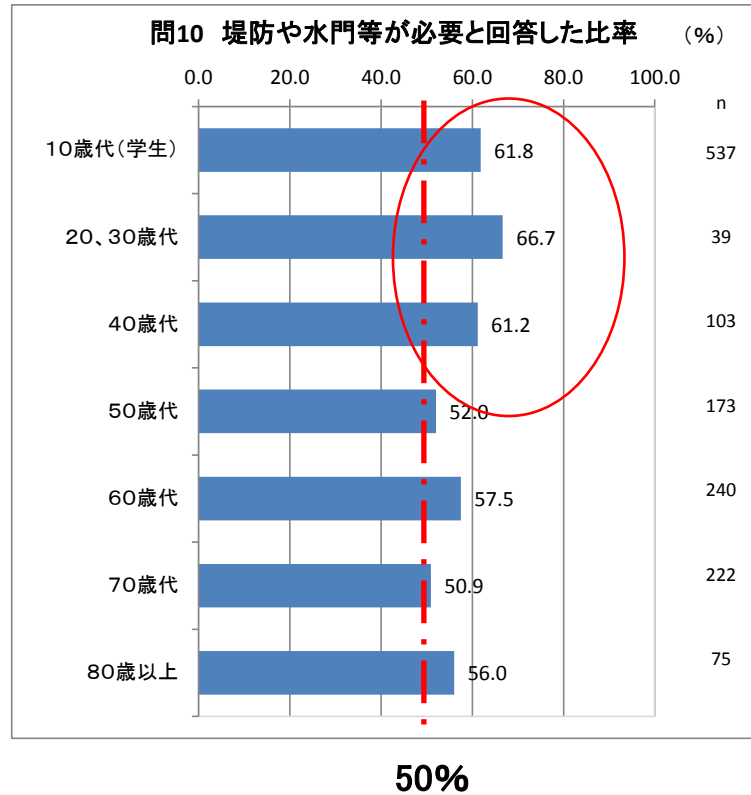
【考察①】

⇒ 「避難対策(ソフト対策)」とともに「堤防や水門等の整備」も重要な対策として認識されている。

2 御荘地区沿岸の津波対策について

【調査結果②】

【年代別で比較】



・いずれの年代においても半数以上が堤防は必要と回答しており、特に若い世代である「10歳代(中学生・高校生の調査結果)」と「20,30歳代」、「40歳代」で6割を超えている。

【考察②】

⇒ いずれの年代においても「堤防や水門等の整備」は重要な対策として認識されており、特に若い世代でその傾向がみられる。

2 御荘地区沿岸の津波対策について

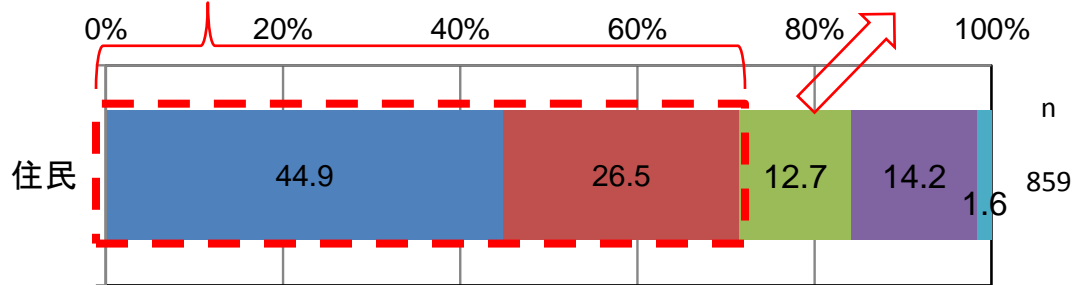
(2) 堤防の必要性（高さ）について

【調査結果③】 問11 御荘地区沿岸の津波対策として、あなたが必要だと思う堤防の高さは次のどれですか。

「堤防が必要」とした回答：71.4%

問11 必要だと思う堤防の高さ

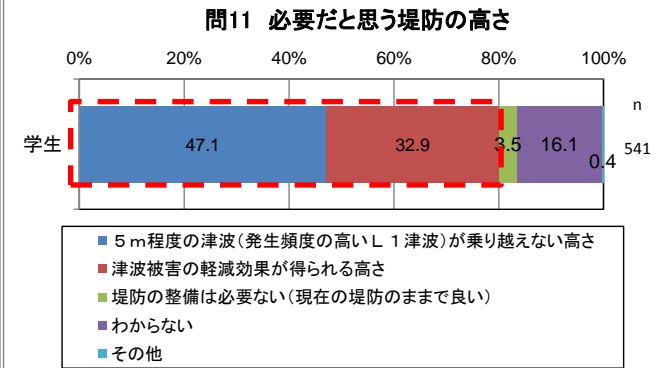
「堤防は必要ない」とした回答：12.7%



- 5 m程度の津波(発生頻度の高いL1津波)が乗り越えない高さ
- 津波被害の軽減効果が得られる高さ
- 堤防の整備は必要ない(現在の堤防のままで良い)
- わからない
- その他

【中学生・高校生】

「堤防が必要」とした回答：80.0%



- ・「5m程度の津波が乗り越えない高さ」が必要と回答した住民(44.9%)と、「津波被害の軽減効果が得られる高さ」を回答した住民(26.5%)を合わせると、全体の71.4(=44.9+26.5)%となっている。
- ・「堤防の整備は必要ない」と回答した住民は全体の12.7%となっている。
- ・なお、中学生・高校生は全体の80%が「堤防が必要」と回答している。

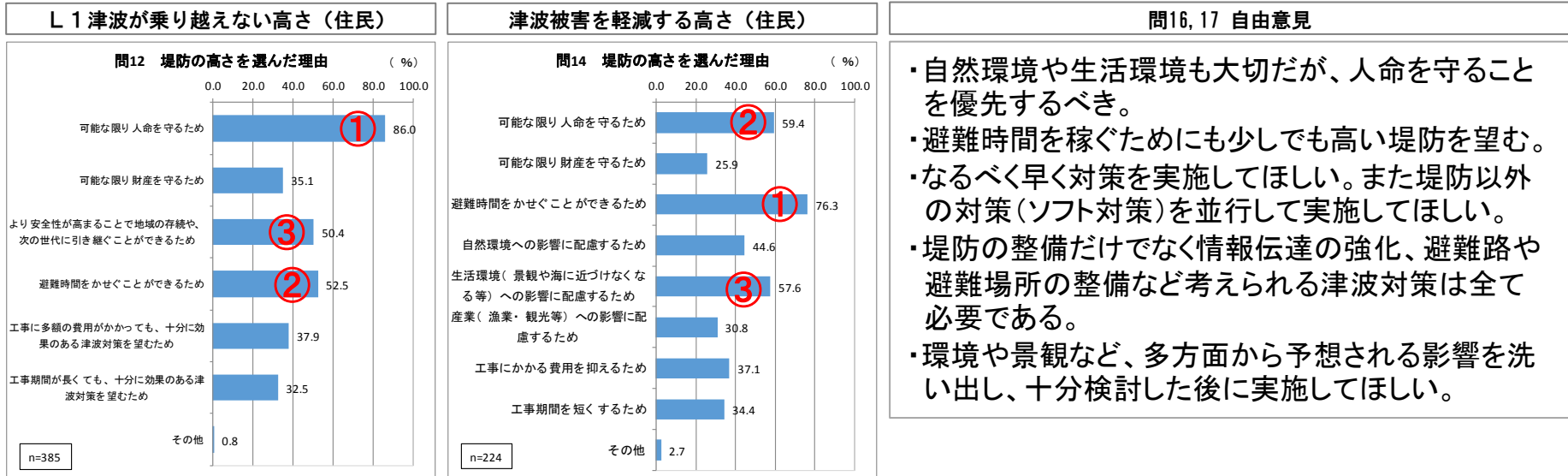
【考察③】

- ⇒ 必要だと思う堤防の高さとしては「5 m程度の津波が乗り越えない高さ」での整備を求める意見が多く、「津波被害の軽減効果が得られる高さ」と合わせると7割程度ある。
- ⇒ その一方で「堤防は必要ない」の意見も全体の1割程度ある。

2 御荘地区沿岸の津波対策について

(3) 「堤防が必要」とした理由

【調査結果④】 問12 あなたが、その高さを選んだ理由は次のどれですか。(複数回答)



- ・「L1津波が乗り越えない高さ」を必要とした住民では、「可能な限り人命を守る(86.0%)」が突出して多い。
- ・「津波被害を軽減する高さ」では、「避難時間をかせぐ(76.3%)」が最も多く、続いて「可能な限り人命を守る(59.4%)」や「生活環境への影響に配慮(57.6%)」が多い。
- ・「整備が必要」とした自由意見として、「人命を守ることが重要」や「環境・景観への配慮」を求める意見、「堤防の整備と並行してできる対策」を求める意見がみられる。

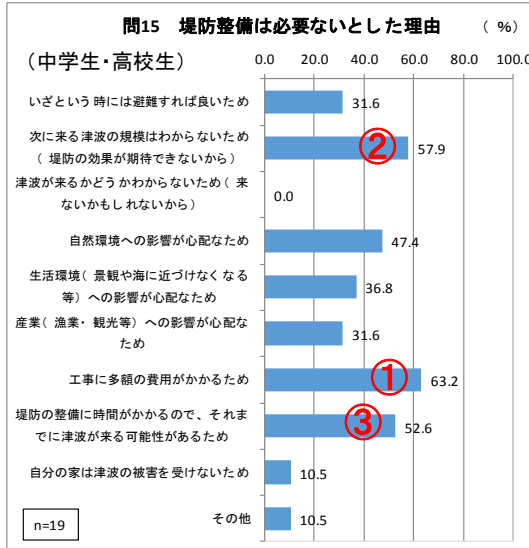
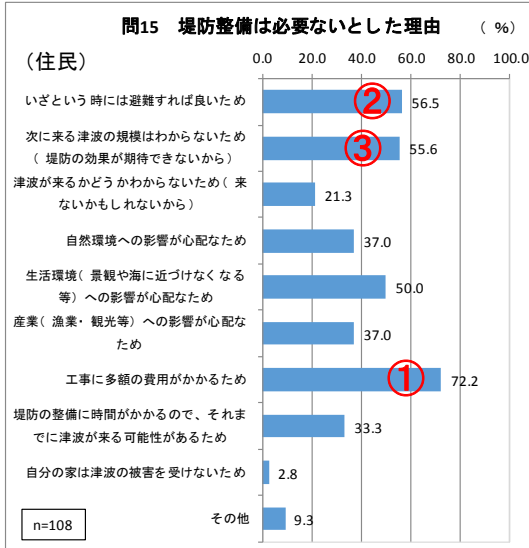
【考察④】

- ⇒ 「L1津波が乗り越えない高さ」を選んだ住民はより安全性が高くなることを求め、「津波被害を軽減する高さ」を選んだ住民は環境の影響への配慮も求めている。
- ⇒ 人命を守ることを優先した整備を求める意見がある一方、環境や景観への影響を懸念する意見もある。
- ⇒ 堤防の整備とあわせて、避難を後押しするためのソフト対策を求める意見がある。

2 御荘地区沿岸の津波対策について

(4) 「堤防は必要ない」とした理由

【調査結果⑤】 問15 あなたが、「堤防整備は必要ない」とした理由は次のどれですか。(複数回答)



問16, 17 自由意見

- ・堤防を整備しても完全に防御することが困難なのであれば、避難を重視した対策を進めるべき。
- ・避難場所・避難路等の整備を充実するべき。津波避難タワーの整備を優先するべきではないか。
- ・堤防の整備には莫大な費用がかかるので、他の対策を検討するべき。
- ・環境・景観は、一度失うと取り返すことができないので、自然環境を守り、多様な生物を守る必要がある。
- ・現在の漁業を衰退させない、生活を守ることが大切。

- ・「整備は必要ない」という理由は、「工事に多額の費用がかかるため(72.2%)」が最も多く、続いて「いざという時には避難すれば良い(56.5%)」や「次に来る津波の規模はわからない(55.6%)」となっている。
- ・なお、中学生・高校生も同様に「多額の費用(63.2%)」が最も多い。また、「堤防の整備に時間がかかる(52.6%)」が上位にあり、「完成までに津波が来る可能性」を懸念している。
- ・「整備は必要ない」とした自由意見として、「堤防の整備よりも他の対策を進めることが必要」と「環境や景観、産業を守るべき」という意見がみられる。

【考察⑤】

- ⇒ 堤防整備は必要ないとした理由として、「工事にかかる費用」や「堤防の効果」、「環境への影響」を懸念する意見が多くみられる。
- ⇒ 中学生・高校生は、「堤防の整備が完成するまでに津波が来る」ということも懸念している。
- ⇒ 住民の防災意識の高揚や避難路の整備、避難体制の強化といったソフト対策が求められている。
- ⇒ 環境や景観、水産業への影響等が懸念されており、堤防が整備されることによって生じる影響を心配する意見がみられる。

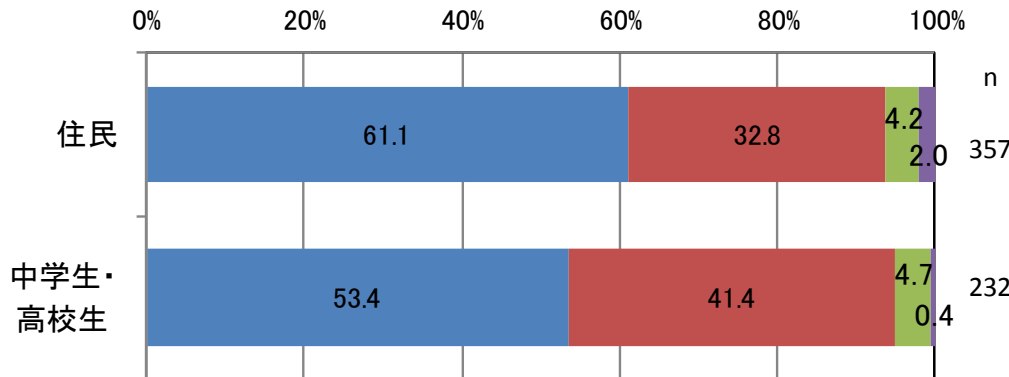
3 堤防整備の進め方について

(1) 堤防整備の進め方

【調査結果⑥】

問13 堤防の完成まで長い年月が必要となります。
早期の対策が求められる中、あなたは堤防整備の進め方についてどう考えますか。

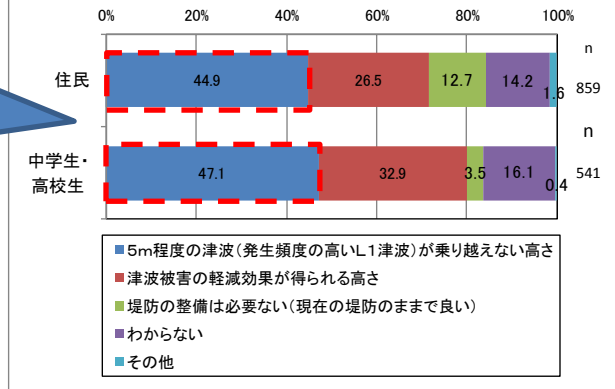
問13 堤防整備の進め方についてどう考えるか



- 長い年月がかかっても、L1津波が乗り越えない高さ(5m程度)の堤防整備を進める
- 整備期間をわけ、まずは第1期整備として、津波被害の軽減効果を得られる高さ(2m程度)の堤防整備を先行して進める
- わからない
- その他

「L1津波が乗り越えない高さ」
を選択した回答者を対象

問11 必要だと思う堤防の高さ



- ・「L1津波が乗り越えない高さ」の整備を求める回答者は、「長い年月がかかっても、L1津波が乗り越えない高さの堤防整備を進める(61.1%)」が「第1期整備として津波被害の軽減効果を得られる高さの堤防整備を先行(32.8%)」よりも多い。
- ・中学生・高校生の方が住民よりも、第1期整備として先行整備を求める比率が高い。

3 堤防整備の進め方について

- ・整備方針（案）に示した段階的整備に対する住民の評価について、「堤防の高さ」と「整備の進め方」で整理すると、第1期整備の高さを求める意見は、345人（117人+228人）、40.1%（紫色の着色部分の合計）となっている。

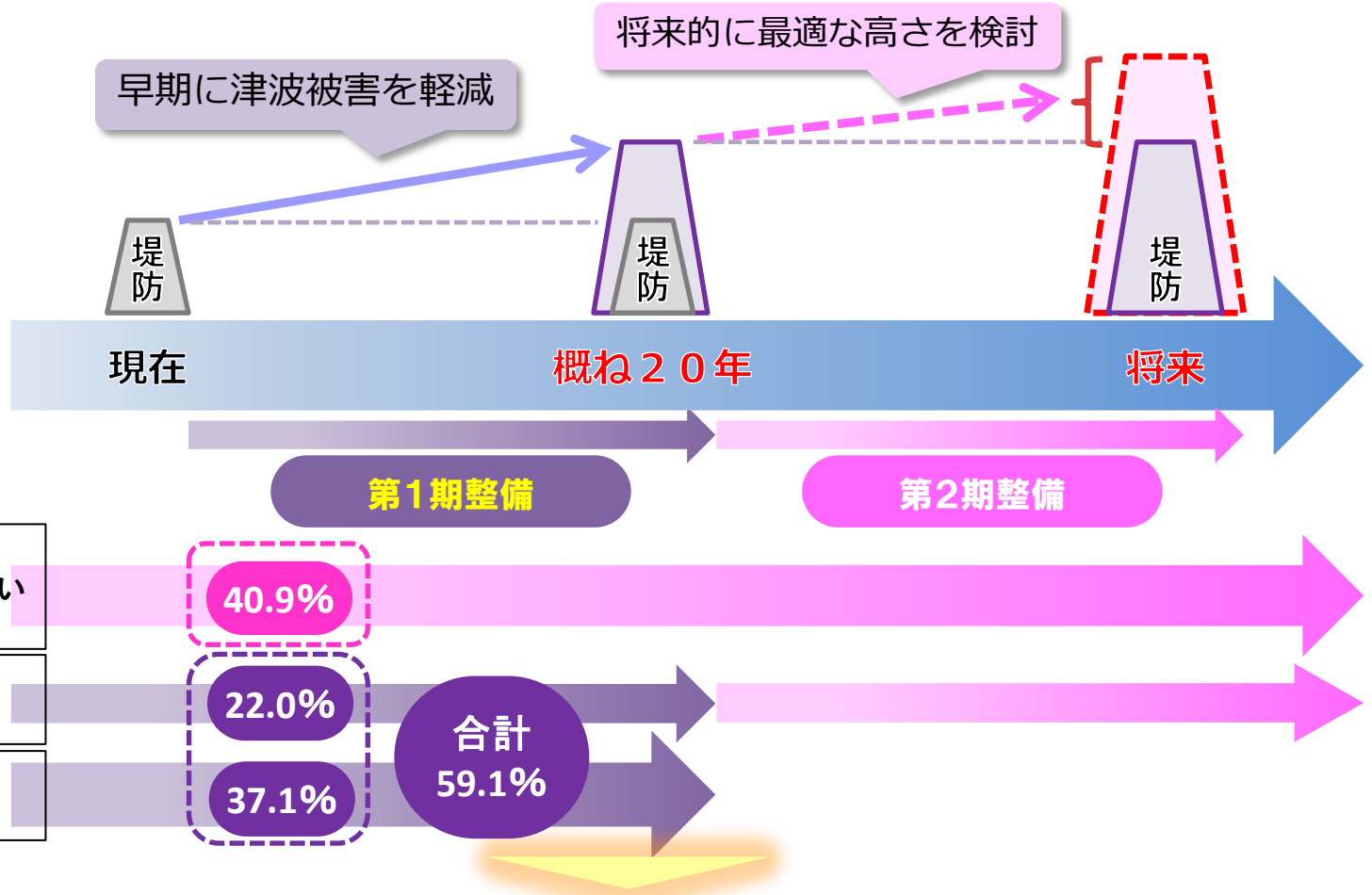
| 堤防の“高さ”に対する意向 | | ① L1津波が 乗り越えない高さ | ②津波被害の軽減効果 が得られる高さ (第1期整備の高さ) | ③堤防は必要ない | わからない、 その他 |
|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------|-------------------------------------|---------------------------------|---------------|
| ①時間がかかっても L1津波が乗り越え ない高さで整備 | | 386人 44.9% | ③ 228人 26.5% | 109人 12.7% | 136人 15.8% |
| 整備の“ 進め方” に 対する意向 | ①時間をかけてもL1津 波が乗り越えない高さで 整備 | ① 218人 25.4% | — | ③第1期整備の 高さで完成 | — |
| | ②津波被害の軽減効果が 得られる高さで先行整備 (第1期整備) | ② 117人 13.6% | — | ②段階的整備により まずは第1期整備 の高さで整備 | — |
| | わからない、その他 | 51人 5.9% | — | — | — |

- ・上記の結果を、「堤防が必要」と回答した人（218+117+228=563人）を対象として、堤防の高さ・進め方の組合せを整理すると、以下のような結果となる。

| 高さの意向 | | ① L1津波が 乗り越えない高さ | ②津波被害の軽減効果が得られ る高さ（第1期整備の高さ） |
|------------|-----------------------------------|---------------------|---------------------------------|
| | | 62.9% | ③ 37.1% |
| 進め方 の意向 | ①時間をかけてもL1津波が乗り越えない 高さで整備 | ① 40.9% | — |
| | ②津波被害の軽減効果が得られる高さで先 行整備（第1期整備） | ② 22.0% | — |

3 堤防整備の進め方について

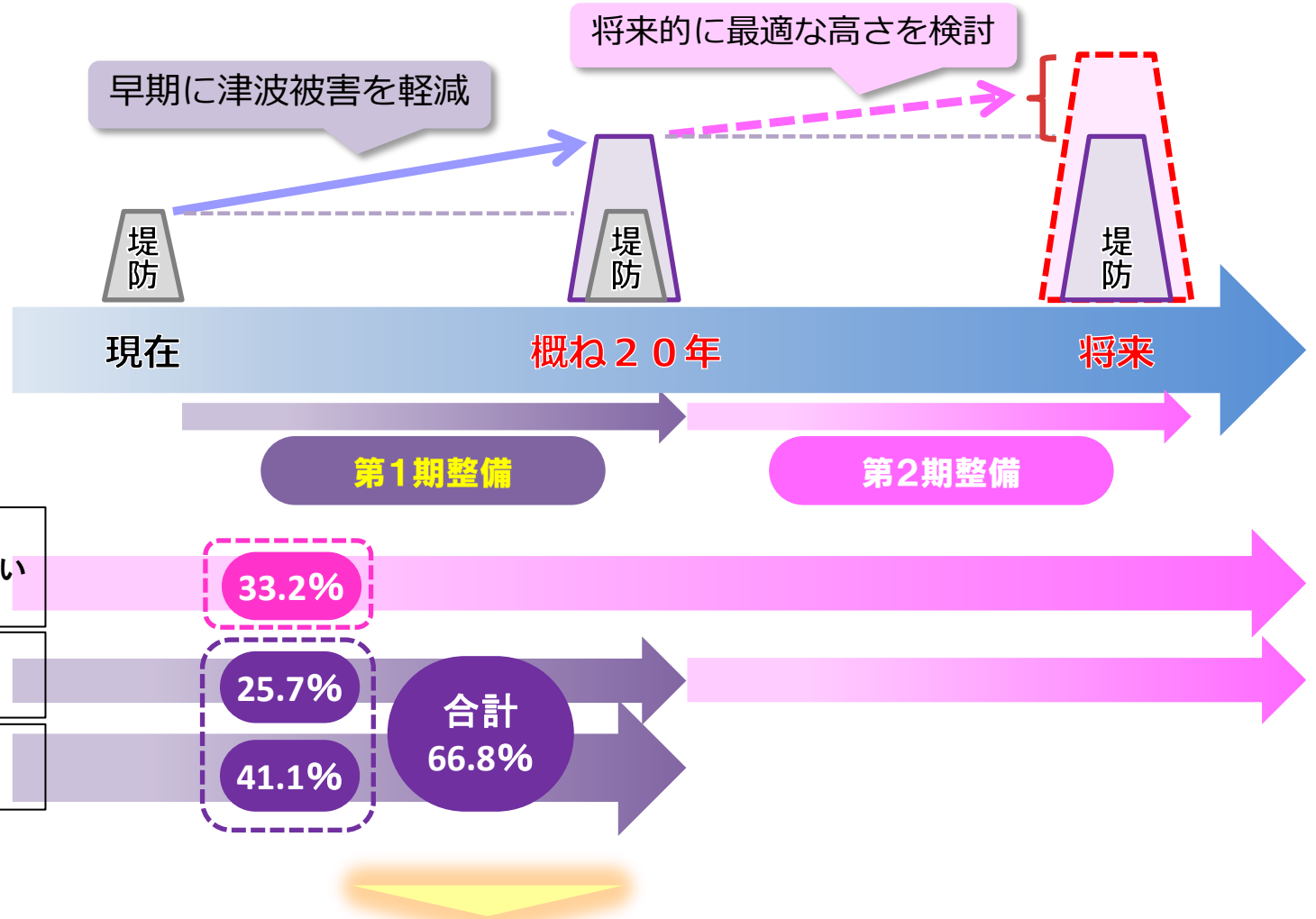
「堤防が必要」と回答した
住民の集計結果



- ⇒ 「堤防が必要」という回答者のうち、「第1期整備の高さ」を求める意向は約6割となっており、人命を守るために早期の堤防整備が求められている。
- ⇒ より減災効果の高い堤防整備を求める意向も強く、将来的に必要な高さについては、整備にかかる費用や期間、防災効果等のバランスを考慮した最適な高さを検討していく必要がある。

3 堤防整備の進め方について

「堤防が必要」と回答した
中学生・高校生の集計結果



【考察⑥】

⇒ 中学生・高校生は、「第1期整備」を求める意向は約7割となっている。

4 住民意向調査のまとめ

○「堤防整備の必要性」についての意向確認結果

- ①「避難対策(ソフト対策)」とともに「堤防や水門等の整備」も重要な対策として認識されている。
- ②いずれの年代においても「堤防や水門等の整備」は重要な対策として認識されており、特に若い世代でその傾向がみられる。
- ③必要だと思う堤防の高さとしては「5m程度の津波が乗り越えない高さ」での整備を求める意見が多く、「津波被害の軽減効果が得られる高さ」と合わせると7割程度ある。
- ④「L1津波が乗り越えない高さ」を選んだ住民はより安全性が高くなることを求め、「津波被害を軽減する高さ」を選んだ住民は環境の影響への配慮も求めている。
- ⑤人命を守ることを優先した整備を求める意見がある一方、環境や景観への影響を懸念する意見もある。
- ⑥堤防の整備とあわせて、避難を後押しするためのソフト対策を求める意見がある。
- ⑦「堤防は必要ない」の意見も全体の1割程度あり、「工事にかかる費用」や「堤防の整備効果」、「環境への影響」を懸念する意見が多くみられる。
- ⑧中学生・高校生は、「堤防の整備が完成するまでに津波が来る」ということも懸念している。
- ⑨住民の防災意識の高揚や避難路の整備、避難体制の強化といったソフト対策が求められている。
- ⑩環境や景観、水産業への影響等が懸念されており、堤防が整備されることによって生じる影響を心配する意見がみられる。

○「堤防整備の進め方」についての意向確認結果

- ⑪「堤防が必要」という回答者のうち、「第1期整備の高さ」を求める意向は約6割となっており、人命を守るために早期の堤防整備が求められている。
- ⑫より減災効果の高い堤防整備を求める意向も強く、将来的に必要な高さについては、整備にかかる費用や期間、防災効果等のバランスを考慮した最適な高さを検討していく必要がある。
- ⑬中学生・高校生は、「第1期整備」を求める意向は全体の約7割となっている。